

平成26年度 教育活動自己点検・評価に対する学長の見解

自己評価する場合、教員により評価の基準にばらつきがあるが、ある程度容認せざるをえないと考える。さりとて各教員の時系列での改善を期待する。

本学は2009年開学の新しい大学であるため、教育活動はもとより委員会活動や大学運営に関する業務等多岐にわたっている。教育活動では各人が授業運営において学生目線にたった創意工夫をし熱心に取り組んでいることは喜ばしい。委員会活動でも専任教員38名が複数の委員会に所属し奔走している。

その裏返しとして研究活動では、一部の教員は活発に取り組み競争的資金の獲得も多いが、全般的には低調と考える。すでに大学院も完成年度をむかえ、若手教員の養成の観点からも学術論文により、また学会における研究発表活動に期待する。

前学長の見解に「教員間の委員会活動などの業務負担の差が著しい」とあり、私が学長に就任したのが本年4月であり、まだ把握出来ていない面もあるが、教育、研究、委員会活動などの業務バランスを勘案した配置とすることが喫緊の課題と考える。

大阪保健医療大学

学長; 福田益和